

28F-pm03

薬用植物マカのケミカルプロファイリング解析

○治京 玉記¹, 内山 文昭^{1,2} (¹中村大 PAMD 研, ²中村大院栄)

【目的】古来より各国で民間療法として用いられている薬用植物は、化学医薬を補完・代替する医薬・機能食品として、その効能が注目されて来ている。アブラナ科植物マカ *Lepidium meyenii* WALP は、ペルーでは性機能の低下、更年期の諸症状や不妊などに用いられている伝統的な薬用植物である。しかしながら、伝統的に利用されている薬用植物の多くは、殆どが野生または自然環境下で栽培されており、様々な外的環境変化により必ずしも 2 次代謝産物の組成等が一定とはならず、薬効にばらつきが生じている。本研究では、ペルー産、日本産、中国産乾燥マカ飼料を用いて、マカの 2 次代謝産物について高速液体クロマトグラフィー (HPLC) 法によるケミカルプロファイリング解析を行ったので報告する。

【方法および結果・考察】ケミカルプロファイリング解析用サンプルとしては、ペルー産、日本産、中国産乾燥マカ飼料 (株式会社ヤマノ) のアルコール抽出物を用いた。フィルター濾過 (Merck KGaA, 0.45- μ m PTFE) による不純物の除去後、HPLC 用サンプルとした。次いで、確立した測定条件を基に各サンプルを ODS カラム (GL Sciences Inc., Inertsil ODS-3, 5 μ m, 4.6 x 250mm) を使い、GILSON Trilution LC システムで分析し、スペクトルデータを収集した。ペルー産、日本産、中国産マカ抽出物の生理活性については、現在検討中である。